

昭和62年度日本気象学会山本賞の受賞者決まる

受賞者：林 祥介（東京大学理学部）

対象論文：The 30~40 day oscillations simulated in an "aqua-planet" model.

J. Meteor. Soc. Japan, 65, 451-467 (1986年 8月)

選定理由：熱帯大気の“30~60日周期振動”は、大気大循環の季節内変動の顕著なものとして、また、モンスーンやエルニーニョ・南方振動現象に強い関連を有するものとして、近年、爆発的に研究が行われている問題である。その結果、観測データの解析によって、その実態はかなり良くわかって来た。しかしながら、そのメカニズムについては、大気のある種の自由振動であるとか対流雲と日射の相互作用とか、海面温度と結びついた変動であるといったさまざまな推論がなされるのみで、混乱状態にあった。林会員は、この現象が基本的には大気の湿潤対流と赤道域の大規模波動との相互作用によって必然的に生まれるものであるとの予想の下に、住会員と共

同して全域を海洋で覆われた「水惑星モデル」による数値実験を行い、みごとにそのことを立証した。ほぼ同時に複雑な GCM の解析によっても同じ現象が見出されたが、海陸分布を含むモデルであるためメカニズムの解明には不十分であった。この研究は論文印刷以前から世界中の研究者にインパクトを与え、30~60日周期振動の研究の新しい流れを作り出している。

この論文は、“30~60日周期振動”の解明に貢献することをひとつの目的としているが、それにとどまらず、水平スケールが3,000 km 程度で東向きに移動する対流雲の集団（スーパークラスターと命名）が存在することを予言し、さらに地球大気の湿潤対流がいくつもの階層をなすことを指摘するなど、オリジナルで斬新な視点を多数含んだ極めて意欲的な研究である。

以上の理由により、日本気象学会は昭和62年度の山本賞を林 祥介会員に贈るものである。

日本気象学会国際学术交流基金への募金のお願いと寄付者御芳名（第15報）

日本気象学会は、かねてから各国の気象関係組織および研究者との学术交流を図るため、国際学术交流基金を設けて、学会もしくは会員の学术交流の援助を目的とした活動を致しております。実施にあたっては、外国で開催される国際学術研究集会への会員の出席の補助、国際学术交流に貢献する事業の援助などです。

本来この基金は、少なくとも一千万円程度の元金がありますが、その利息で活動費をまかなうことを目標としていますが、現在のところ、その過渡期として、学会自身の年間予算から毎年約百万円を積み立て、並行した、わずかの一般事業費と篤志による個人寄付金で活動を行って

おります。

基金の基礎を固めるためには、是非、会員の皆様からの御寄付をお願いします。理事会としては、さらには大口の団体寄付を仰ぐべく努力致す所存です。国際学术交流基金の趣旨を御理解いただき、12月号挿入の振替用紙を御利用の上、一口千円として、なるべく多くの御寄付をお願いします。

なお、募金期限は昭和62年12月末日と致しますが、早い時期にお振り込みいただきますようお願いいたします。

昭和62年 9月

日本気象学会

昭和62年 8月31日現在、つぎの会員からご寄付がありましたので、お礼を兼ねて報告申し上げます。（敬称略）
和田 誠

以上	1名	合計口数	5口	5,000円
累計	128名	1団体	総口数	973口
62. 8. 31 現在	国際学术交流基金額		5,000,000円	
				（うち配当金 158,683円 基金繰入）